

マンツーマンディフェンスの推進に関して

2015. 11

本大会における禁止事項と禁止事例

～ 選手, 指導者, コミッショナーの共通理解のために ～

はじめに ～ マッチアップに関して① ～

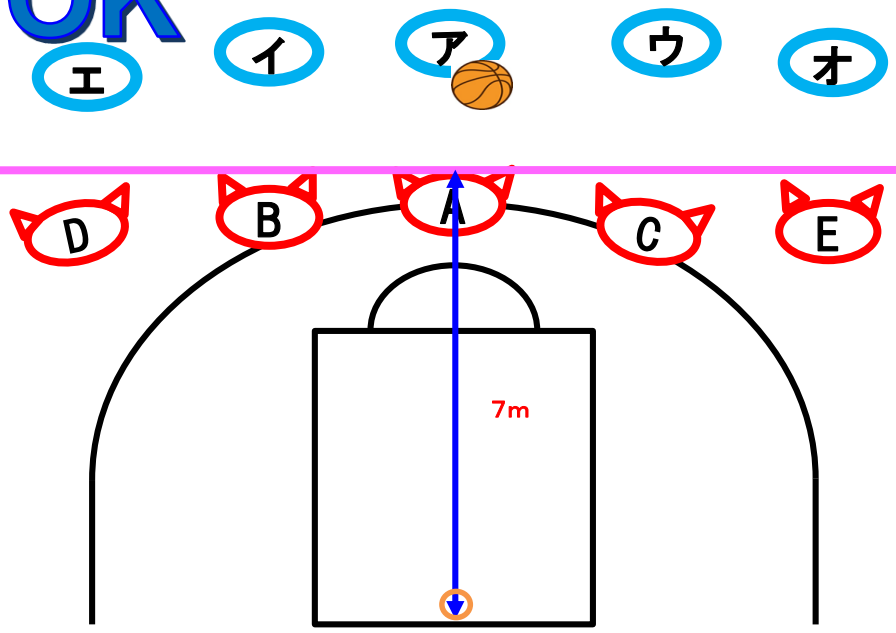
ディフェンス側プレイヤーは、ゴールから7mの場所からマッチアップができています。

※オフェンス側プレイヤーも7m以内でプレーをしなければならない。

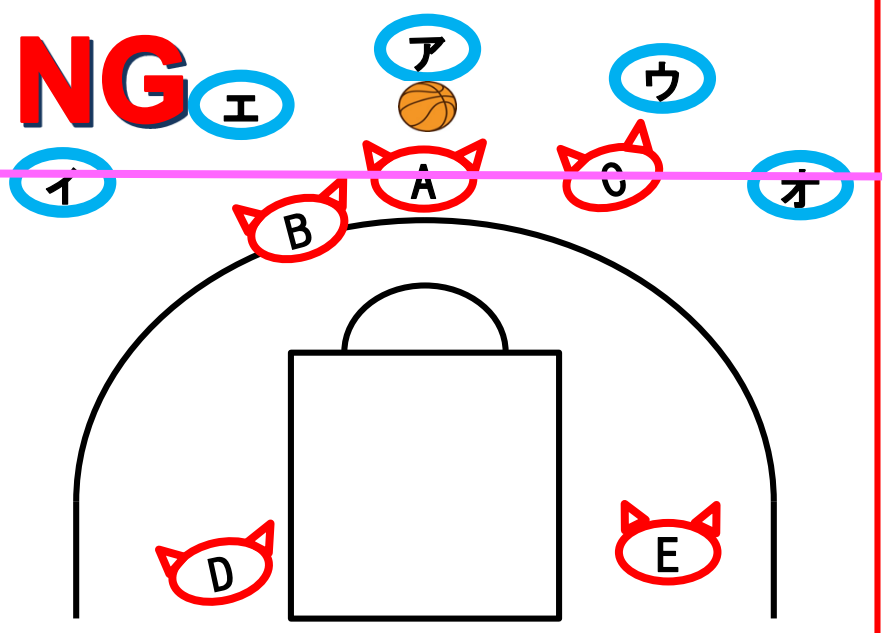
ディフェンス側プレイヤーD・Eは、ゴールから7mではない場所でオフェンスをとらえているが、7mの位置からマッチアップをしなければならない。

1-①

OK



NG



はじめに ～ マッチアップに関して② ～

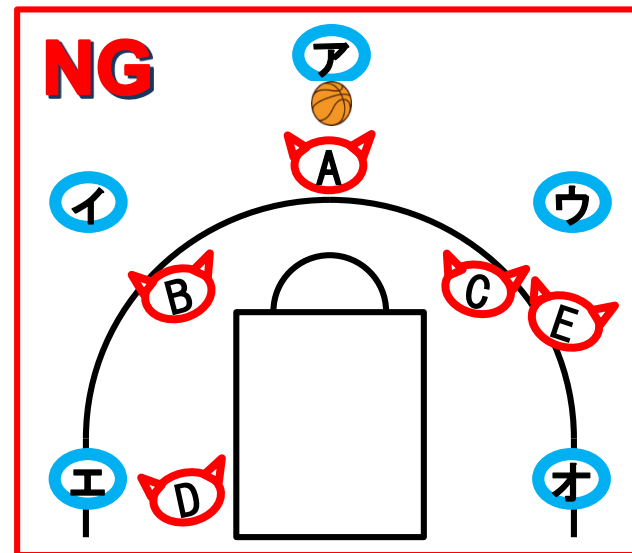
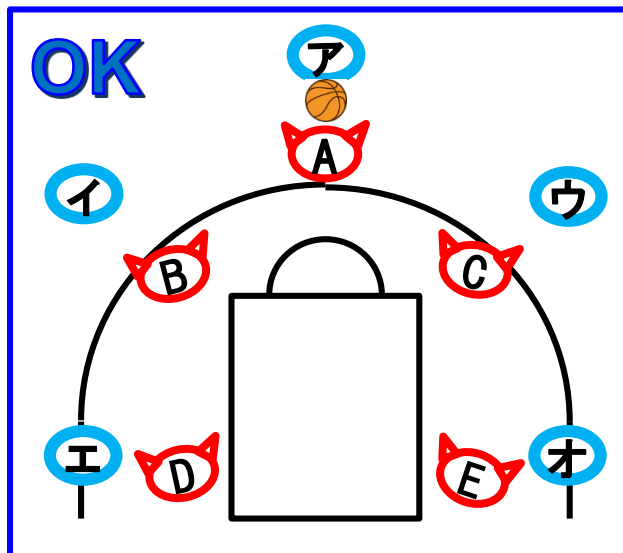
全てのディフェンス側プレイヤーは、マンツーマンで、オフェンス側プレイヤーの誰とマッチアップしているか明確でなければならない。

マッチアップは、ディフェンス側プレイヤーがオンボール(ボールマン)ディフェンスを開始した時から始まる。

オンボールディフェンス側プレイヤーは、ボールとリングの間に位置し、距離は最大1.5m。つまり、シュートチェックと1対1のドライブを止められる距離であること。

オフボールディフェンス側プレイヤーは、オフェンス側プレイヤーがボールをレシーブした際に対応できるポジション(1.5m)を取りながら、常にマッチアップするプレイヤーが見えるか、感じられるように移動しなくてはならない。

・アイコンタクト ・言葉のサイン ・手のサイン(指さし)



1-③

禁止事項について

本大会において、禁止事項とすることは以下のことについてであり、罰則の対象になる。

- 1 オフェンスに対するマッチアップ
- 2 ヘルプやトラップ、ポジションについて
 - ① オンボールディフェンス(ボールマンディフェンス)
 - ② ボールサイドディフェンス
- 3 ヘルプサイドディフェンスについて
 - ① ミドルラインからのディフェンス
 - ② ポストマンディフェンス
- 4 パス又はドリブルによってダブルチームが収束した場合について

ヘルプやトラップ, ポジションの定義

ヘルプ

- ・リングに向かうドリブルペネトレーションに対して, オンボール(ボールマン)ディフェンスプレイヤーが止められずに抜かれた場合, オフボールディフェンス側プレイヤーが守りにいくこと。
- ・オフボールのオフense側プレイヤーがリングへカットすることに対して, オフボールディフェンス側プレイヤーが止められずに抜かれた場合, 別のオフボールディフェンス側プレイヤーがポジションチェンジして守りにいくこと。

トラップ

相手チームの攻撃を終わらせることを目的として, オフボールディフェンス側プレイヤーが, ボールマンにダブルチームをしに行くこと。
ただし, オフボールオフense側プレイヤーをトラップすることは違反である。

マッチアップする際のポジション

《オンボール(ボールマン)ディフェンス》

オンボール(ボールマン)ディフェンスプレイヤーのポジションは, ボールとリングの間に位置し, 距離は最大1.5メートル。つまり, シュートチェックと1対1のドライブを止められる距離であること。

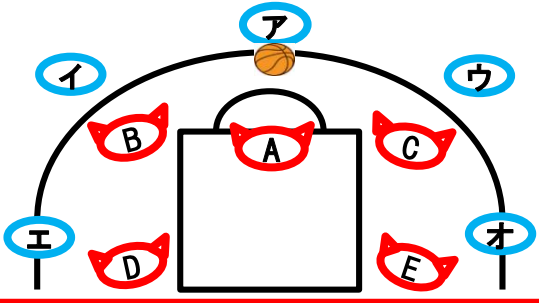
《オフボールディフェンス》

オフボールディフェンス側プレイヤーは, オフense側プレイヤーがボールをレシーブした際に対応できるポジション、距離を取りながら, 常にマッチアップするプレイヤーが見えるか, 感じられるように移動しなくてはならない。つまり, マッチアップするオフense側プレイヤーがオンボールプレイヤーになった際に, すぐに最大1.5mの距離でディフェンスできるようなポジションを取ること。

その際, ヘルプサイドのディフェンス側プレイヤーは, ヘルプまたはトラップに行く場合を除いて, ミドルラインを越えずに, 最低限片足はヘルプサイドに置き, 自分のマークマンとボールの両方が見えるポジションを取ること。

1 オフェンスに対するマッチアップ 〈ディフェンスの位置〉

NG



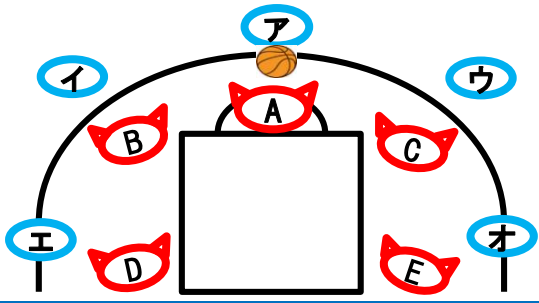
1-②

マッチアップエリア(スリーポイントライン付近)にも関わらず、アに対するAのマッチアップが不十分。

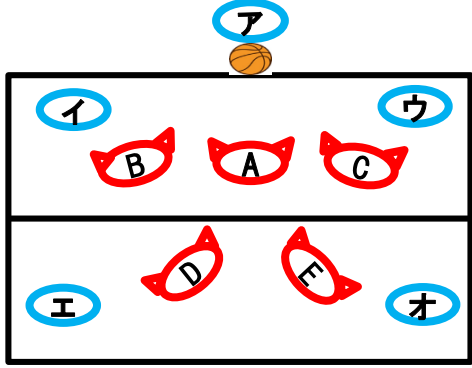


Aは、アから1.5m、つまり、シュートチェックと1対1のドライブを止められる距離にポジションを取ること。

OK



NG



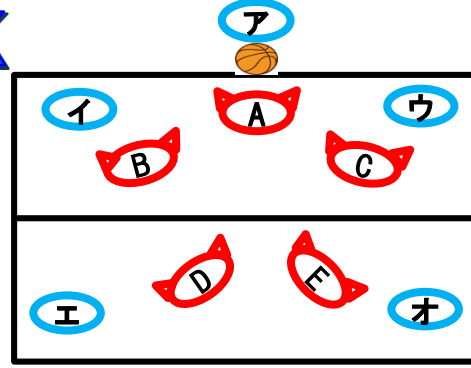
1-③

スローインの際にマッチアップを開始しているにも関わらず、アに対するAのマッチアップが不十分。

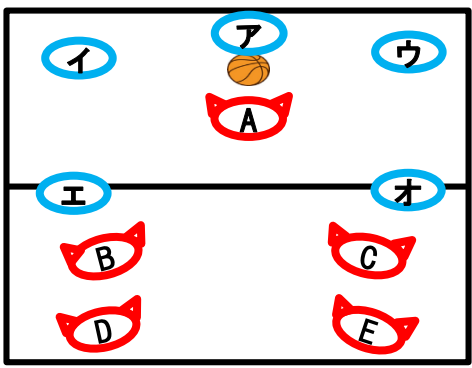


Aは、ゾーンまたはコンビネーションディフェンスにならないポジションを取り、背を向けないこと。1.5mの距離が望ましい。

OK



NG



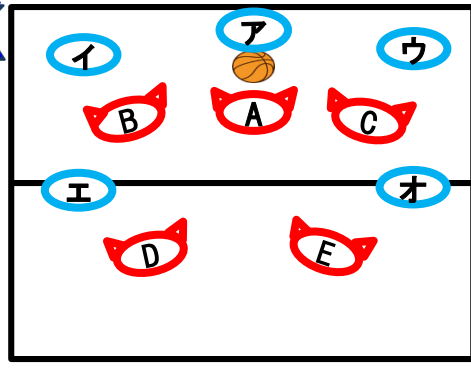
1-③

アに対してAがオールコートでマッチアップしているにも関わらず、B～Eがマッチアップを開始していない。



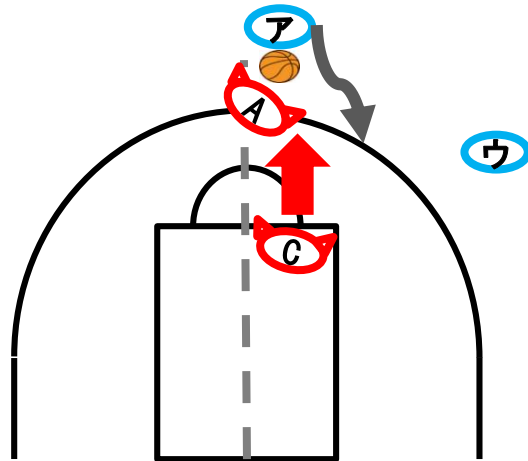
Aがオンボールディフェンスを開始すれば、B・C・D・Eもそれぞれマッチアップを始めること。

OK



2 ヘルプやトラップ、ポジションについて <①②ボールマンディフェンス禁止事例>

NG

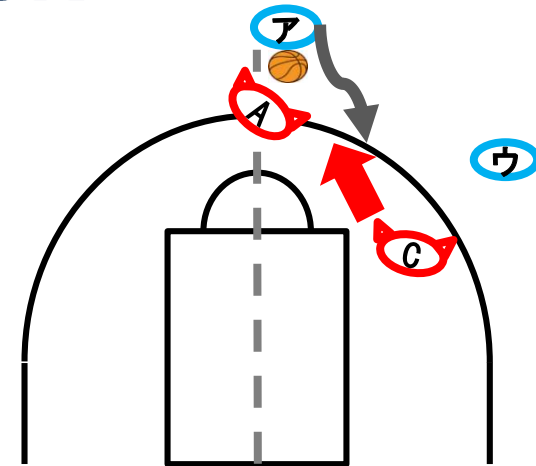


2-①

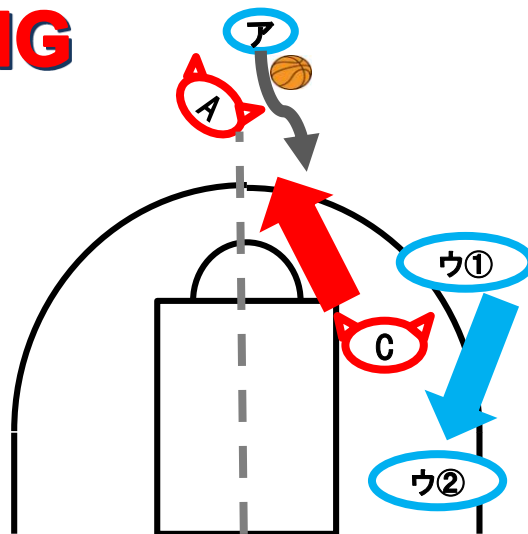
ウを見るか、感じているが、ウから離れすぎているCが、AにヘルプまたはAにトラップ。

Cは、ウがボールをレシーブした際に、1.5m以内の距離で対応できるポジションからヘルプまたはトラップ。

OK



NG

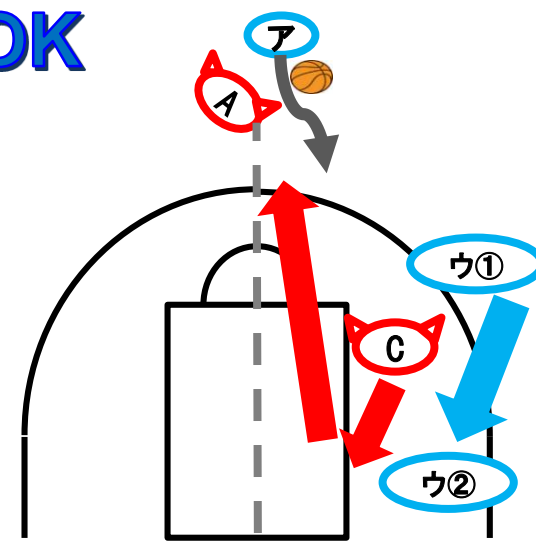


2-②

ウが①から②にポジションチェンジしているにも関わらず、Aだけを見てウをとらえようとしていないCが、AにヘルプまたはAにトラップ。

ウがボールをレシーブした際に、対応できるように、ウが見えるか、感じられるポジションを取りながら、ヘルプまたはトラップ。

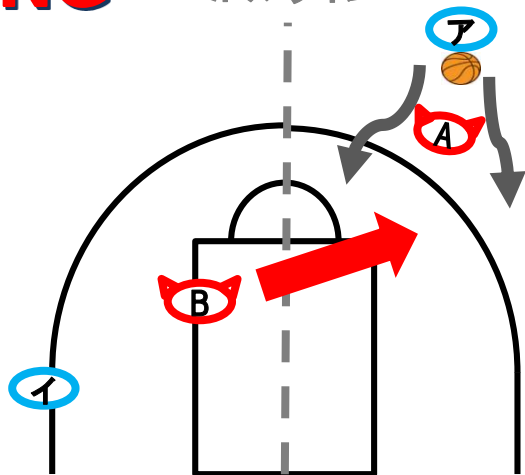
OK



3 ヘルプサイドディフェンスについて <①②ヘルプサイド・ミドルラインの位置>

NG

ミドルライン



3-①

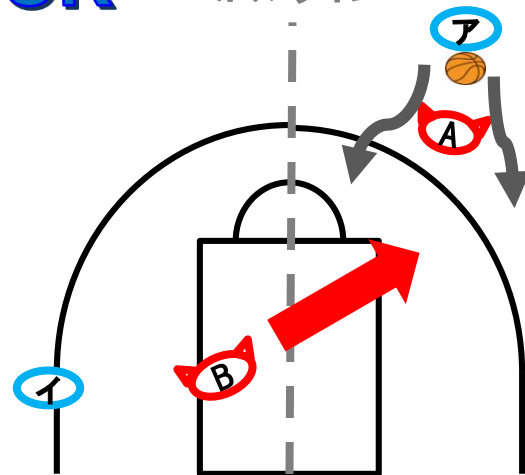
ヘルプサイドにポジションを取っているが、イを見ず、感じてもないBが、Aにヘルプまたはアにトラップ。



ヘルプサイド内で、イが見えるか、感じられるポジションからヘルプまたはトラップ。

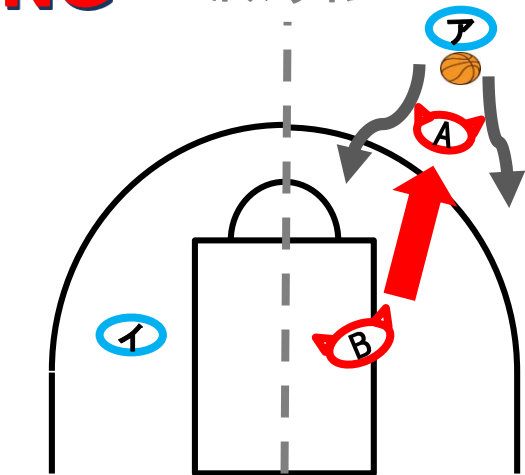
OK

ミドルライン



NG

ミドルライン



3-②

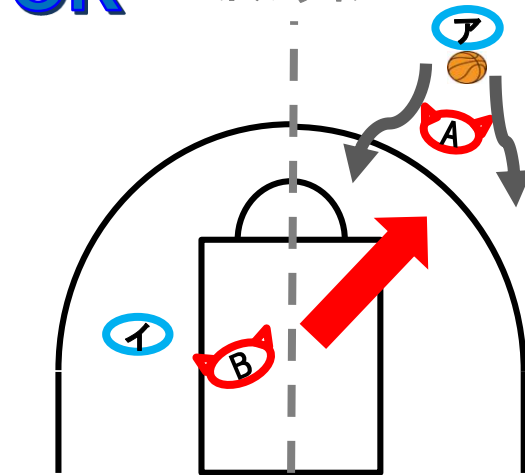
ボールと逆サイドにいるイを見るか、感じているが、ボールサイドにポジションを取っているBが、Aにヘルプまたはアにトラップ。



ヘルプサイド内で、イが見えるか、感じられるポジションで、ミドルラインを超えない位置からヘルプまたはトラップ。

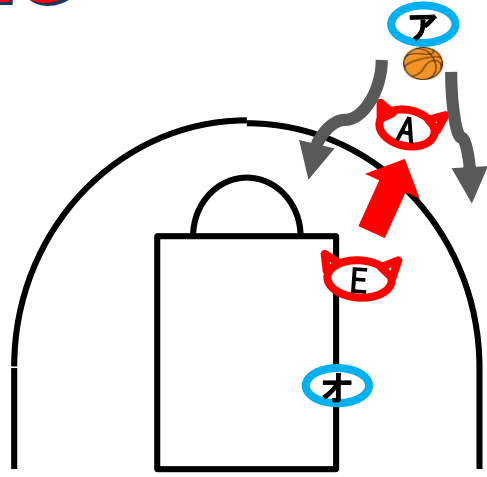
OK

ミドルライン



3 ヘルプサイドディフェンスについて <③ポストディフェンス禁止事例>

NG



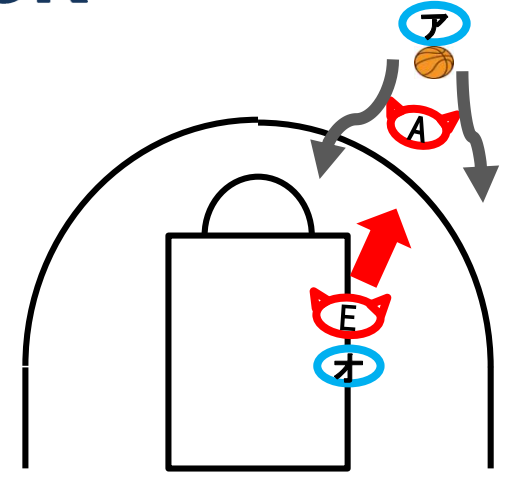
3-③

オの前に出て守っているが、オから離れすぎており、オを感じていないEが、AにヘルプまたはAにトラップ。

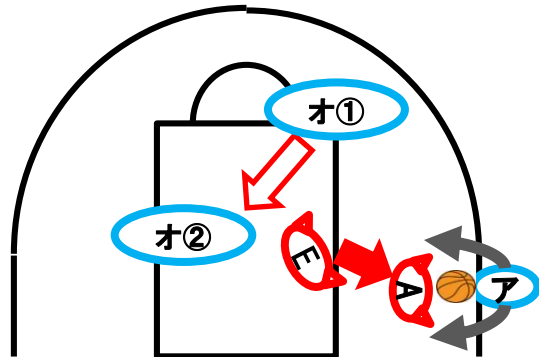


オがボールをレシーブした際に、対応できるポジションを取ることができるように、オを感じられるポジションから、ヘルプまたはトラップ。

OK



NG



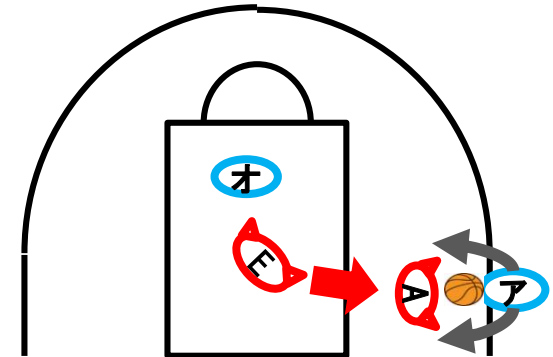
3-③

オがポジションチェンジをしているにも関わらず、アだけを見てオを見ず、感じてもないEが、AにヘルプまたはAにトラップ。



オがボールをレシーブした際に、対応できるように、オが見えるか、感じられるポジションを取りながら、ヘルプまたはトラップ。

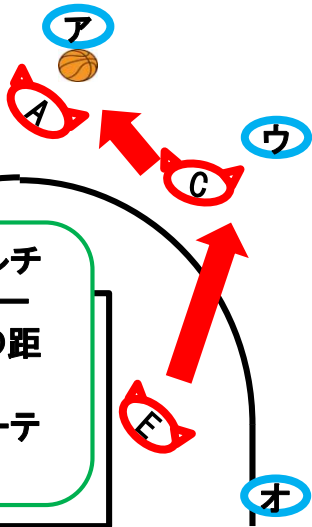
OK



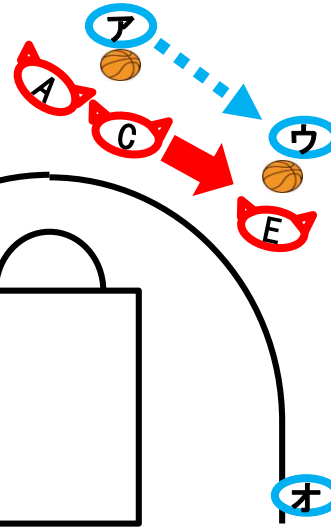
4 パス又はドリブルによりダブルチームが収束した場合について

ここまで
OK

- ・ AとCのダブルチーム(AもCもボールから1.5mの距離)が完成。
- ・ Eは、ウにローテーション。



NG

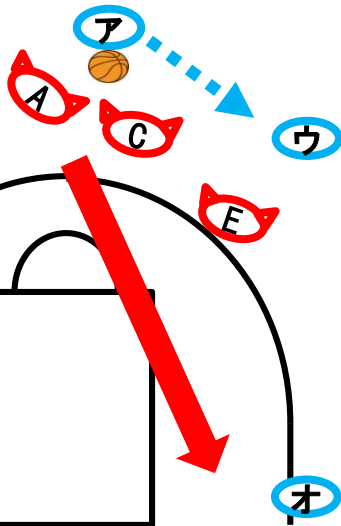


4-①

Eが、ウにマッチアップしているにも関わらず、Cがダブルチームから、そのままEにヘルプまたはウにトラップ。

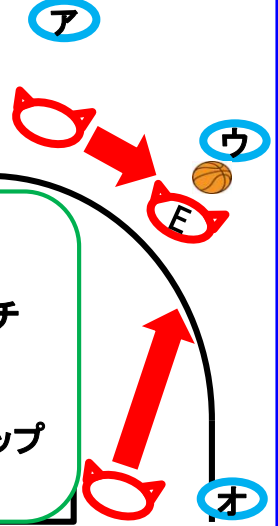
Cは、オなどのマッチアップされていないオフェンス側プレイヤーにマッチアップしに行くこと。

OK

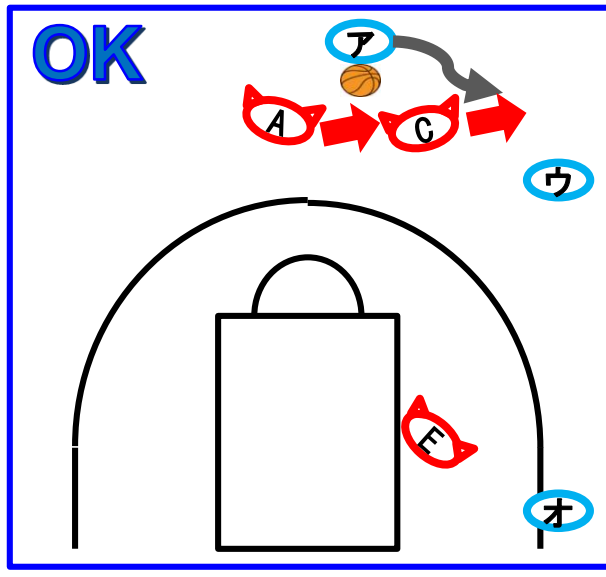
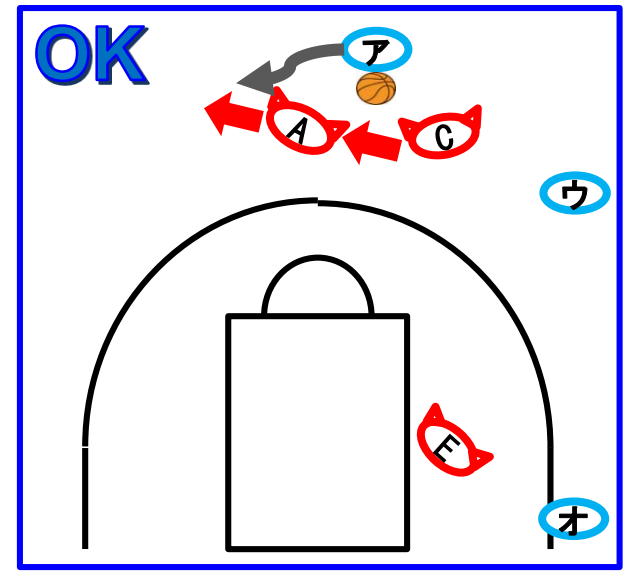


4-②

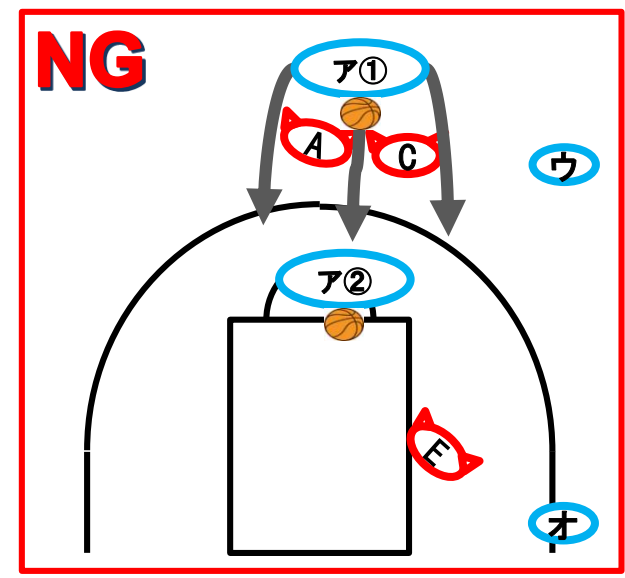
ダブルチーム
↓
5人が明確にマッチアップ
↓
ヘルプまたはトラップはOK



4 パス又はドリブルによりダブルチームが収束した場合について

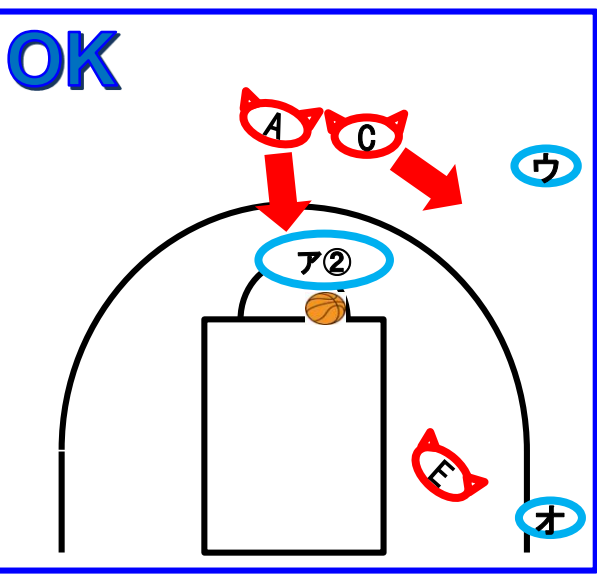


ダブルチーム(AもCもボールから1.5mの距離)しているAとCが、ドリブルペネトレーションするアに対して、抜かれないように2人で守ることはOK



4-③
ア②のようにダブルチームを完全に破られ、ダブルチームが収束しているにも関わらず、AとCが2人でアを追う。

AまたはC(できれば、ボールから遠いプレイヤーが望ましい)は1人がボールを追い、もう1人はウなどのマッチアップされていないオフェンス側プレイヤーにマッチアップしに行くこと。



おわりに

ルール違反となり、罰則の対象となるのは、先述の禁止事例の

1-① 1-② 1-③ 2-① 2-② 2-③

3-① 3-② 3-③ 4-① 4-② 4-③

である。

しかし、指導者もコミッショナーも、禁止事例の現象のみを取り上げてルール違反とするのではなく、プレイヤーを育てる視点を持ち、下記のことを重んじながら、ルール違反かどうかを見極める必要がある。

- ディフェンス側プレイヤーの能力を認めること。
 - ・ディフェンス側プレイヤーが先を読んだプレーについて、ディフェンス側プレイヤーの能力を否定する判断をしない。
 - ・現象に対して、オフェンス側プレイヤーに責任があるのか、ディフェンス側プレイヤーに責任があるのかを判断する。
- ディフェンス側プレイヤーの能力を考えること。
 - ・意図せずに起こる現象について、全てをすぐにルール違反としない。
- オフェンス側プレイヤーが攻めようとする意思が見えない場合に発生する現象について、ルール違反かどうかを判断すること。